

神奈川県地方創生推進会議 総合戦略推進評価部会（基本目標 2、4）議事録

名 称：平成 28 年度 神奈川県地方創生推進会議 総合戦略推進評価部会（基本目標 2、4）

開 催 日 時：平成 28 年 8 月 12 日（金曜日） 10 時 00 分から 12 時 00 分まで

開 催 場 所：神奈川県自治会館 3 階 会議室 NO. 3

出 席 者： 牛山久仁彦、柏木京子、黒田聡、ジギャン・クマル・タパ、関ふ佐子、  
富田幸宏、富山英輔、平位武、三崎幸恵、蓑宮武夫、武藤修儀、室田昌子、  
山崎哲雄、秋山怜史〔計 14 名〕（順不同）（ は部会長）

次回開催予定日：未定

問 合 せ 先：政策局政策部総合政策課計画グループ 加藤宏翼

電 話 (045)210-3064（直通）

ファクシミリ (045)210-8819

-----  
経過：

1 開会

杉山総合政策課長：ただ今より、平成 28 年度神奈川県地方創生推進会議 総合戦略推進評価部会を開催させていただきます。私は総合政策課長の杉山でございます。本日はご多忙のところ、ご出席いただきましてありがとうございます。まずは資料の説明をさせていただきます。

（杉山総合政策課長から配布資料の確認）

2 議事

議題 1 部会の設置について

杉山総合政策課長：それでは議題に入ります。本日の議題につきましては、お手元の資料のとおりとさせていただきますのでよろしくお願いいたします。委員の皆さまには、先般、座長より部会の委員に指名させていただいたところでございます。

（杉山総合政策課長から資料 1 - 1、1 - 2 について説明）

杉山総合政策課長：それでは、牛山部会長、議事進行をお願いいたします。

議題 2 「神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略 2015 年度評価報告書（案）」について

牛山部会長：皆さん改めましておはようございます。部会長ということで、よろしくお願いいたします。本日も是非、活発なご議論よろしくお願いいたします。議事に入る前に、委員変更をお知らせします。人事異動によりまして、神奈川県労働局長が若生様から藤永様に変更となりました。藤永委員は 9 日に行われました評価部会のご担当でしたので、本日お見えではありませんが、ご了承ください。また、お手元に「神奈川県地方創生推進

会議委員名簿をお配りしておりますので、ご参照いただければと思います。それでは議事に入ります。この推進会議は昨年の6月4日に始まりまして、これまで6回にわたりまして、会議を開催し、委員の皆様から活発なご意見をいただいております。そして、ご承知のように、今年の3月に「神奈川県人口ビジョン」と、「神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定することができました。ありがとうございました。今回は、総合戦略の進行管理、地方創生先行型交付金事業の評価にあたりまして、これまで実施した施策や事業、そしてKPIを踏まえた一次評価をお示しいただくことになっています。まず、事務局より、部会の進め方、基本目標2について15分ほどご説明及び報告いただきます。

(杉山総合政策課長から総合戦略推進評価部会の進め方、資料2～4の基本目標2について説明)

牛山部会長：ただいまご説明いただいた内容を踏まえまして、この基本目標2について、議論をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。多くの委員の皆様からご意見をいただきたいと思っておりますので、大変恐縮ですが一人1回の発言について2分程度にまとめて簡潔にお願いいたします。それではこの基本目標2について、ご意見のある方から挙手をいただければと思いますがいかがでしょうか。

平位委員：私が出ていない会議で議論になったか分からないのですが、それぞれのKPIの数値目標、実績は分かりますが、2015年と2019年の策定の過程はあまり記憶になく、なにか例で構いませんので、ご説明願えればと思います。不勉強なのかもしれないのですが。

杉山総合政策課長：KPIにつきましてはそれぞれの小柱の事業について、県の事業部局とも相談させていただいた中で、県として、行政の計画として取り組むわけですから、その取り組みの中で、財政的問題や体制的問題を踏まえながら、可能な限り、少し高めめの目標を設定させていただき、という項目をまずたてています。どんな項目が一番、その事業を実施するにあたって適切なのかということを考え、その上で、今申し上げましたような様々な予見を考慮して何とか手が届くような、そういった数値目標をKPIとして設定させていただいております。このKPIを設定するに当たりましては、この会議の中でも各委員の皆様、KPIの設定についてはご議論いただいたと思っておりますけれども、最終回まで、このKPIの適正さとその数値目標の推進についてご議論いただいたうえで、ご評価いただいていると考えております。

平位委員：ありがとうございます。今お話のあったとおり、あまり高くても意味がないのではないのでしょうか。ちょっとがんばれば手が届くというところでやったという。いい評価で概ね良好か、良好かという。あまりにもハードルが低いという訳ではないのですね。ありがとうございます。

牛山部会長：他の委員の方いかがでしょうか。

富田委員：おはようございます。すみません。忙しさにかまけて、詳細なことについて、なかなか意見が述べられる状況でなく、お詫びを申し上げます。これまでも評価部会や向こう5年間の目標について皆さん一生懸命考えられてこられて、それは大切なことで、実は、違った形で伝わると本意ではないのですが、県の一次評価の評価方法の中で、小柱の部分というのは分かりづらいのですけれども、評価の区分が4つに分かれています。着手していない部分、これ、あるのかないのか、逆にあるならばその辺は時間として変わっていけばいいのであって、評価の5つめに未着手とか、言葉はまた考えて欲しいですけれども、そうした方が全体的に信頼性があがるのかなと、無ければ無いでもいいのですけれども、一年ですぐになど考えると、未着手があって自然かなという、そういったものもあるので、ここまで整理出来て、いまさら言うのもご迷惑なのですが、できたとかできなかったなども、評価として自然な流れの方がいいのかとも思います。

杉山総合政策課長：ご意見ありがとうございます。県も評価をするにあたって、小柱ごとに評価をしていますので、小柱単位で言いますと、何も未着手という状況になっているものは、ほばないと認識しています。ただ、中にはまだ着手できていないものもあるかもしれない、それがこの5年間の中で、できていなかったものができていく、という前進が見えていくということも意味があると思っております。そうしたものについては、取組みと成果であるなど、あるいは課題のところであるなど、そうしたところで表現ができるといいと思っております。そうしたものの洗い出しと、事業部局ごとの調整をさせていただければと考えております。

牛山部会長：有意義な意見ありがとうございました。他の委員ご意見ありますでしょうか。

秋山委員：おそらく把握されていると思うのですが、例えば神奈川ライフの展開のときの移住で、PR映像の視聴数があると思いますが、一体誰が見ているのかというか、県内への移住のことを言っていると思いますので、県外の人が見ていないとやっぱりそれは効力としては薄いじゃないのでしょうか、おそらくそれはネット上では分かると思うのですが、そういった、誰が見ていて、それがそこからどうつながったのかということも含めて書かれていると、非常に単純に数字が書かれているよりは効果があったなど、そういうことが分かるのかなと思いますので、せっかく視聴回数も9万回を超えていて、実際に相談件数も非常に高くなっているのに、実際に県外の人に来ていたのだと、そういったことが数値で書かれていると信頼度が増すのかと思いますがいかがでしょうか。

牛山部会長：具体的に中身を書けるのかとか、把握されているのかとか、そういったところをお願いします。

杉山総合政策課長：貴重な意見ありがとうございます。ものによってですが、把握し

きれている部分と把握しきれていない部分があると思います。例えば、移住動画であれば、神奈川県内の方が見るよりは、神奈川県外の方が見られることによって、いわゆる社会増につながっていくという趣旨です。そういったデータがあって、書ける余地があるのであれば、できる限りその資料というのは県が内部的に使うのもではなくて、県民の皆さんに見てもらうものですから、可能な範囲でそういった工夫が出来ればいいと思っておりますので、事業部局と数値の把握や書ききれない範囲というものを精査してまいりたいと思います。

三崎委員：26 ページの K P I（ネットゼロエネルギーハウスの設置数（累計））で、2019 年の目標値が 2 万件で 2015 年の目標値が 750 件、累計ということなのですが、先ほどの説明ですと、2014 年度に比べるとおよそ 2 倍の設置数ということは、2014 年度でも 300 件ちょっとでした、ということは足しても 1000 件を超える程度、これを目標値としている、達成度合いとして、今後 3 年でうなぎのぼりになる見込みをどのようにされているのかお聞きしたいです。

杉山総合政策課長：Z E H 設置の計画については 2016 年に 1,600 件、2017 年に 4,600 件、2018 年に 10,600 件となっています。詳細は把握しきれていませんが、事業部局によりますと技術革新等により 2017 年以降は急速に普及する見通しであると、承知しています。その見通しが妥当なのか、根拠があるのかについては改めて確認したいと思います。

室田委員：K P I の適切性について説明があるとよいです。「こういう戦略があって、こういうプロセスを経て、この目標を達成しようとしている。そのためにはこの K P I が適切である」という説明があると、「なぜこの K P I なのか」が分かるようになります。また、数量目標のほかに質的なデータがあると、より数値データの持つ意味がより分かるようになると思います。

杉山総合政策課長：まず数値目標の設定の考え方ですが、この総合戦略自体は県として「まち・ひと・しごと創生法」に基づいて作っているものでありますので、地方創生を進める上での県の施策を集めたものになっています。その裏には、県としてもさまざまな計画、総合計画や個別計画があります。そうしたところにも当然、数値目標等、あるいは取組みの方向性が書いてございますので、そうしたものなども敷衍しながら数値目標を設定させていただいています。それがどう記載されていくのかという点はあるのですが、それは一定、3 月のところで戦略自体の立ち上げはしていますので、それはそれと思っています。

もうひとつの点、数量だけではなくて質的な変化ということもあります。これも、国の今回の地方創生の流れの中で、きちんと数値目標を設定しなさいということが非常に大きく掲げられております。その数値目標を基に P D C A サイクル、いわゆる Plan、Do、Check、Action、というものを通しながら進捗状況を適切に管理していくということ

とがありますので、数値目標を中心に書いていくということがあります。

ただ、ここでご評価をいただく場合についても、このK P Iということだけではなくて、物事の成り立ち上当然K P Iが中心となつてこようかと思いますが、そうした中でもさまざまな総合的な評価をしていただくということで、今回このような第三者委員の皆様にご評価をいただいております。その中で出たご意見については、先ほどもお話しさせていただきましてとおり、基本目標ごとに委員からの評価をいただきますし、あるいは県としても、質的にこういったものがあるということがあれば、それはもう少し関係部局とも相談しながら、書き込んでいけるものは書き込んでいく、そのことによって県民の皆様にはわかりやすいものにしていく、それは大事なことだと思っています。

牛山部会長：ありがとうございます。では、蓑宮委員。

蓑宮委員：K P Iのことで私も補足で確認したいのですが、これをやった結果、この地域が非常に元気が出たねということが当然大事なので、捉え方として補足をされたらどうか。

ひとつは、より良い捉え方として、「地域資源を活用した魅力づくり」ということで「未病いやしの里の駅の数」というのがありますが、これはハード面。その下に、「県西未病観光コンシェルジュ講座修了者数」というのがあって、これはソフト面ですね。これは非常に良いK P Iの捉え方だと思います。それでいくと、「神奈川モデルのショールーム化」で「エネルギー自立型の住宅・ビル・街の形成をめざす神奈川の発信」というものがあります。もちろんこれは、ハード面ではネット・ゼロ・エネルギー・ハウス云々ということが書いてあるのですが、ソフト面では小田原市もこういうことやっているのですが、環境省が作った「うちエコ診断士」というのがいる。若い女性とか主婦の人とか、イケメンの若い人とか。家庭で実際にQ & Aしながら「お宅はこういう状態です」。これはポディブローで効くと思うのですよね。だから、ハード面とソフト面を組み合わせるK P I、サブでもいいですけど、こういうふうに捉えると、より現実的に市民ぐるみでポテンシャルが上がるのではないかなと。

そういう意味でいくと、もうひとつK P Iで考えてもらいたいのは、「観光プロモーションの推進」の「外国人観光客の誘致促進」。「海外のメディアや旅行会社の招請社数」というK P Iは、これはこれで良いのですが、例えば先日ベトナム・ハノイのホテルに泊まりまして、TVチャンネルを見ますと、12言語で発信している。それで、1チャンネル、2チャンネルが、ベトナムは親日国ですから、NHKとNHKプレミアムをやっている。これが他の国に行くと、何チャンネルがNHKとかなっている。ベトナムで12ヶ国語やっている。日本で多いのは多分4ヶ国語。同じ日航の福岡。ここは4ヶ国語が出る。これからは多言語の発信を増やしていくという、ソフト面を併せてやったら、これからのものすごくいいと思う。今、300万円のホテルはないかって問い合わせがあるくらいです。金持ちの層は全然違う。言語の数を増やすというのは、これから観光客を増やすという点でひとつのキーになるのではないかと思うので、併せ技で、サブでも良いですが、ソフト面のK P Iを付け加えたらいかがかと思っています。

ついでに、地域では、鎌倉、三浦半島、海、山、歴史。今週の月曜日、小田原の高台に

あるヒルトンのところからヘリコプターに乗って、小田原の海岸、小田原城、それから海・山・川、芦ノ湖まで遊覧して。今の時期も非常に素晴らしいのだけど、紅葉の頃とか桜の頃はもっと良い。よくラスベガスなんかに行くと、グランドキャニオンをヘリコプターとか小型ジェット機で見に行く。そういうものをもっと、神奈川県をインバウンドの方が、ホテルに泊まってそういうところを見るというのは、神奈川の良さを発揮できるイベントになるのではないかと思います。そういう形のものも付け加えたらいかかと思えます。

牛山部会長：いくつかご意見をいただきました。KPIをいくつか加えたらということ。

蓑宮委員：切り口を多様にとということ。

牛山部会長：そうですね。事務局、いかがでしょう。

杉山総合政策課長：大変ご示唆に富むご意見をいただきました。

今年の3月にKPIも含めてこの総合戦略を策定させていただいて、この会議の中で決定をさせていただきました。そのところを基本にしながら、経年的に見ていく必要があると思っています。ただ、その中で、今回ご議論いただく中でKPIを追加したほうがいいのではないかとということになりますと、当然KPIを追加するという手法もありますし、もうひとつの手法としてKPIに書かないにしても、こちらに記載しています取組みと成果の部分であるとか、あるいは今後の課題と対応の中でそうしたものを表現していく。あるいは、皆様からいただいたご意見を、推進会議の意見として記載していく。さまざまなやり方があるかと思えますので、どういった方法をとっていくのかは、改めて部会長等とも相談させていただきます。また、KPIを変えていくということになれば、全体会議を開かせていただくというようなことも含めながら、いろいろと考えていきたいと思えます。

ただ、KPIを設定するにあたって、一面的なKPIということではなく、例えばハードだけではなくハードとソフト、複合的にKPIを設定するというを通じて、さまざまな視点が生かされた政策のPDCAサイクルを回すということに役に立つのであれば、県の施策が進むということは地域の活性化が進むということですから、良いことだろうと思えますので、どこまで何ができるか、できることからやっていきたいと思えます。

牛山部会長：大変、重要な意見をいただいたと思えます。ただし、今回は、戦略が策定されそれに伴う評価となります。この次の段階で、委員の皆様にお諮りをしたうえで、KPIを追加するなど検討をする場面が出てくるかもしれませんが、今回の評価を行う上での現実的な対応としては、例えば、課題と対応の中にいただいたご意見を盛り込んでいくなど、工夫ができればと思えます。

関委員：KPIについては、今、牛山部会長がまとめていただいた通りだと思いま

す。具体的に評価をしていくと気づくことも多いと思いますので、今後の対応としてKPIの見直しなども検討をしていただければよいと思います。私からは、この評価報告書の書き方について、少し意見を言わせていただきたいと思います。この報告書を県民の方に読んでいただいて、県の施策について理解してもらおうとするものであれば、県民の方は評価というものに慣れていないため、内容がよく分からないという方も多いと思います。そこで、もう少し用語の説明などを充実させると良いと思います。例えば、KPIという言葉一つにしても、KPIという言葉が分からないという人も多いと思いますので、KPIの説明を入れることで、なぜ目標設定がされていて、それに向けた取組みがされている理由が理解されると思います。その他にも、23 ページに記載されている数値目標の三浦半島地域の社会増減の社会増減という言葉や、その下に記載されている入込観光客数という言葉など、言葉の説明を入れることで、示された数字やグラフの内容をより理解してもらえるとと思います。

次にグラフの書き方ですが、23 ページの三浦半島地域の社会増減数と県西地域の社会増減数のグラフで目盛の間隔が違うので、同じ指標のものは、目盛の間隔をそろえることで、増減の状態を視覚的に理解できるようになるので工夫をされると良いと思いました。それから、一次評価の順調や概ね順調などの表現についても、評価基準の説明を付けるとより分かりやすいと思います。また、今後の課題とも思いますが、資料4に交付金の実績が記載されていますが、主婦的な感覚からすると取組みに多くのお金が使われているものは、しっかりと取組みを進めていただきたいという思いもあり、交付金の実績との評価が必要ないのか、交付金の実績を評価報告書に載せる必要がないのかとも思いました。例えば、基本目標2の(4)地域資源を活用した魅力づくりの と は他と比べると多くのお金が使われていて、なぜここにお金がかかっているのかといった理由も記載されていると、概ね順調に進んでいるなどの評価につながっていることが分かるので、より良いのではないかと思いました。

評価については以上ですが、評価と関係ないのですが、参考にお聞きしたいことがあります。現在、ポケモンGOが流行しており、被災地でも協力して誘客の手段として活用している地域もありようですが、神奈川県もポケモンGOを活用して観光客数を増やすような取組みをしているのか参考にお伺いできればと思います。

牛山部会長：評価報告書の判りやすさについてのご指摘はごもっともだと思いますので、事務局と詳しくわかりやすく、説明も丁寧にと考えていきたいと思います。最後のほうでご質問があった、先行型交付金についての部分とポケモンGOのこともお聞きしたいとのことですので、もし事務局からあればお願いします。

杉山総合政策課長：まず、部会長からお話しがありましたけれども、県民に対する見せ方、分かりやすさ、ここはもう少しどこまでできるか分かりませんが、追求してみたいと思っています。私自身もやはり、見ていただいて、読んでいただいて、分かっていたら、それで県のやっていることに共感していただいたり、ご意見をいただくことが大事だと考えておりますので、分かりやすくしていきたい。

交付金の話ですが、これは評価とは別の話と理解していますので、この評価報告書の

中に交付金のお話を入れるということは想定していないのが現実です。ただ、資料4の中で、金額が大きいところはこういうことをやっているというのが見えると良い、ということについて、この評価部会にお示ししている中で、委員の皆さんからのお話として受け止めれば、次回以降、もう少し分かりやすさについては、ここはこんなことをやっているという事業立てをお見せするとか、そういうことが見えてくると、一体なぜこんなに金額がかかってくるのか、おのずと見えてきますので、次回以降工夫していきたいと思えます。

ポケモンGOについては、申し訳ありませんが、私も承知していませんので、そういうご意見があったことについては、観光関係の部局にお伝えしたいと思えます。

秋山委員：今後、PDCAサイクルを回すということですが、やはり、達成できていなかったものがなぜ達成できなかったのかということは庁内で議論があったと思うのですが、そこを記載して出していただくとうごく助かるなと思っています。例えば、マグカルは「神奈川 イベント」と検索しても出てきません。個人的には、これは完全に名前で失敗していると思いますが、これをネットで公開しているということは、ネットを見る人を対象にしているということですが、それが検索にかかってこないということは完全にアウトだと思います。本当にやる気があるのでしょうか。これがなぜ失敗したのかという突き詰めた議論もここに出していただくとう我々も判断しやすいと思えます。

牛山部会長：課題がある部分についてということになると思えますが、いかがでしょうか。

杉山総合政策課長：マグカルの話で言わせていただきますと、関係部局とは、こういう結果になっておりますので、今後どうして行くのか。マグカル・ドット・ネットについては、さらにブラッシュアップをしていかないといけないと思っています。そこについては、関係部局とも話をしていますし、当然、関係部局ではマグカルの実県展開が進んでいないという状況が結果として出ていますので、こういったものについては、今後、県議会等でも議論させていただくことになると思えます。かながわランドデザインという総合計画の評価においても様々に議論させていただいて、やはり、なぜ進んでいかないのか、市町村をどう巻き込むのか、それから、関係団体をどう巻き込むのか、そうしたことが、市町村の皆さんにしてみれば、それはどうなるのか知りたいわけですから、市町村の皆さんとの話し合いの場を設けるなどし始めている状況にあります。

牛山部会長：はい、ありがとうございました。それでは、基本目標2については、議論はここまでとさせていただきたいと思えますが、今、皆様からいろいろご意見いただきまして、評価の見せ方ですとか、そもそもKPIの設定の仕方ですとかいただきましたが、皆様のご意見の中には、二次評価そのものについては、不相当だというご意見はなかったかと思えますので、この二次評価そのものについては、概ね順調に進んでいるという形の評価でよろしいでしょうか。



全委員：異議なし。

牛山部会長：小柱については、個別に見せ方やK P Iのあり方についてご意見いただきましたので、事務局として整理していただき、個別に指摘すべきということで、書き込めることがあれば記載するという整理をさせていただければと思います。先行型交付金につきましても、実績額に対してどういう効果があったのかというご意見をいただきましたが、このこと自体は、K P I達成に有効であったと評価されておりまして、それについて不相当であるというご意見はなかったと思いますので、これについても同じように、事務局から提示いただいた「K P I達成に有効であった」とまとめさせていただきますのでよろしいでしょうか。

全委員：異議なし。

牛山部会長：はい、ではありがとうございます。つづいて、基本目標4について事務局からご説明いただき、皆さんからご意見いただきたいと思いますので、よろしく願います。

(杉山総合政策課長から資料2～4の基本目標4について説明)

牛山部会長：先ほど同様、ただ今の事務局の説明を踏まえまして、基本目標4について議論をしていきたいと思います。先ほど同様、恐縮でございますが、1回の発言2分程度で簡潔にお願いできればと思います。

黒田委員：K P Iの実績については、まさにこのとおりだと思うのですが、一方で、47ページにある、数値目標と2015年の実績値において、「県民ニーズ調査における『神奈川県に住み続けたい』と思う人の割合」がダウンしているという、非常にネガティブな数字と「順調」とか「おおむね順調」という言葉が何か結びつかないような感じがします。この辺は、最後の二次評価の中かどこかで、課題認識したほうがいいのではないのでしょうか。

牛山部会長：住み続けたいという人の割合が減っているということなので、全体と小柱との関係の確認ですね。

杉山総合政策課長：ご指摘については、重く受け止めておりまして、やはり神奈川県に住み続けたいと思っていただくのが、まさに地方創生のひとつの大きな柱だと思っております。そこについて、この結果をどのように表現していくのかは非常に重要だと思っております。ひとつの方法として、今まさにご指摘いただきましたので、推進会議の評価をいただく際のひとつの記載事項として、県民ニーズ調査の結果を踏まえて取り組む必要があるというようなことを記載させていただくということがあるのかと思っております。また、それに関連するようなところで、何か、更なる書き込みを取組みや課題認識のところまで

きる部分があるか、それについては持ち帰らせていただき、どういったことができるか考えてみたいと思います。

牛山部会長：この評価には直接関係ないかもしれませんが、どこか、他の地方へ移りたいという人がいるのかどうか、それはちょっと分かりませんが、増田レポート第2弾ではそうしたほうが良いと言っているところがあって、なかなか評価というのはいろいろあると思いますが、ここで県外というのはいろいろ数値を把握していると思いますが、地方へ行こうという移住者は多いのでしょうか。お分かりになれば教えていただきたいと思います。

杉山総合政策課長：こちらについては、昨年度策定させていただいた、人口ビジョンの10ページに記載させていただいておりますが、まずは、一都三県の中で、神奈川県でいえば東京に出て行くという状況があります。また、地方との中では、どちらかということ、11万人くらい転入超過という記載がありますが、中には、神奈川県からいわゆる地方というところへ転出される方もいるはずですので、そうした中に現れとして出てきているかと思えます。

牛山部会長：ありがとうございます。神奈川に来たいという方も結構いるという中で、なかなか評価は難しいと思うのですが、確かに知事も県内にとにかく住んでもらうのだということをおっしゃっているわけですから、そのあたりについてどのようなふうに記載していくのか、おそらくこの後、総合評価というようなところの文章も作っていくと思いますので、そのあたりで少し言及できるかどうかご検討いただければと思います。他にご発言はございますでしょうか。タパ委員お願いします。

タパ委員：49ページのKPIの特定健康診査実施率についてですが、これは2015年の実績値の把握が2017年の8月になっていますが、2016年なのではないでしょうか。

牛山部会長：そこは私も実績値を把握するのに2年もかかるのかと思いました。2017年でよいのでしょうか。

杉山総合政策課長：2017年で間違いではございません。厚生労働省が一旦数値を集めた後、精査をして発表している関係上、どうしてもタイムラグが大きく出てしまうということでございます。

タパ委員：分かりました。では、もう1つ52ページなのですが、空き家対策計画に関するKPIの目標値が1市町村で、実績値も1市町村で達成ということなのですが、33ある市町村の中で1市町村だけ策定して、それで目標を達成した、達成率100%というのは、努力したのかなという感じが少ししてしまいます。なので、去年の6月からこの会議が始まっているので、それからどこかの市町村の1つが計画を策定したということだと思うのですが、もう少し広がりがあるようなことができないのかという印象を持ちました。

それから2つめのKPIは、目標値を設定していないということですが、これはこの年は設定できないけれどもこれから設定していくという理解でよいでしょうか。

牛山部会長：ありがとうございます。確かにこの(2)持続可能な魅力あるまちづくりのKPIのところは、県民の皆さんを含めて少し分かりにくいところがあるかもしれません。これについては、事務局いかがでしょうか。

杉山総合政策課長：空き家等対策計画を策定した市町村数に関するKPIについてですが、2015年に1市町村、2016年に6市町村、2017年に7市町村ということでKPIを決めた際に設定させていただいて、ご了解いただいたという状況ではございます。しかし、持続可能な魅力あるまちづくりという意味においては、空き家対策が非常に大きな問題であるということでございます。そのような状況の中で、主な取組みと成果において、相談件数がこれだけありました、ということしか空き家問題に関する記載がございませんので、空き家問題についてどう取り組んでいるのかももう少し県民の皆さんに分かるような記載ができないか、あるいは取組みを実施しているのにこちらに記載をしていないのか、そのあたりを精査していきながらもう少し工夫をしていきたいと思っております。

それから、2つめのKPIである立地適正化計画を策定した市町村数についてですが、2016年から目標値が設定されておりまして、2016年に3市町、その後の2017年に4市町、2018年に4市町となって2019年には5市町に策定していただくよう取り組んでいるという状況でございます。こちらについても、先ほどから何度も皆様からご意見をいただいているとおり、分かりやすさが充分でなければもう少し工夫ができないか関係部局と相談していきたいと考えています。

牛山部会長：ありがとうございます。この空き家等対策計画を策定した市町村数については、目標値が年々増えていくということなのでしょうけれども、2019年の目標値がないというのはどういった理由からでしたでしょうか。

杉山総合政策課長：2018年度以降の目標については、その時点での動向を踏まえながら設定していくということで、KPIの設定時に整理させていただいているところでございます。

牛山部会長：ありがとうございます。そうすると、この先何年かの目標はあるけれども、更にその先は動向を踏まえて設定されるということですので、そのあたりも分かりやすく記載していただければと思います。では、他にいかがでしょうか。

秋山委員：空き家対策の続きの話で、職業柄空き家対策にも取り組んでいるので空き家問題に非常に興味があるのですが、総合相談窓口を作ったのは非常に良い取組みだと思います。ただ、85件相談があったということですが、その85件がどうなったかを追っていくのがすごく大切なのではないかと感じておりまして、そのあたりは把握されているのでしょうか。また、相談までは神奈川県が実施して、それ以降は事業者さんになっていく

のかもしれませんが、そのあたりのフローはどのようになっているのか、そこまで設定されているのか気になったのですが、いかがでしょうか。

牛山部会長：では事務局よりお願いします。

杉山総合政策課長：そこまで詳細にはこちらで把握しきれていないというのが実情です。申し訳ございません。ただ、当然空き家の相談を受けて、県だけではなく市町村で相談窓口を設定しているところもあるでしょうから、そういった中でご相談があってもそのまま放置されてしまうということは、あまり想定できないと思います。ですから、それがどうなったのか、例えば空き家には様々、周辺の課題もございまして、それが解決しきれなくてそのままになっているのか、あるいは取り壊しができたのかというそのあたりについては、個別のケースごとに当然対応されているものと思っております。ただ、現時点ではそれ以上のことについてここで私から詳細にはお答えできないというのが実情でございます。

牛山部会長：ありがとうございました。では、室田委員お願いいたします。

室田委員：今のご指摘等と同じ意見なのですけれども、今回のKPIについて、市町村がこういう計画を策定したとか、こういう景観形成地区を設定したというかたちのものが見受けられますが、もともとの基本目標は「活力と魅力あふれるまちづくりを進める」です。もちろん行政計画を策定しているというのは非常に重要なことですが、それを受け止めるのは住民全体ですので、この基本目標を達成する上での指標として、もっと適切な指標はあり得るのではないのでしょうか。同様に、空き家対策計画を策定したということはもちろん重要なのですが、空き家の相談窓口で実際にどんな相談が行われたのかとか、あるいは空き家の件数がどんな風に変化していったのかとか、そういったものの方が本来は実態を良くあらわし、重要ではないかという気がします。また、広告景観形成地区も、策定できる場所は相当限定される中、「持続可能」で「個性豊かな」まちづくりの目標として、2地区しか対象がありませんので、KPIに取り上げるのは適切なのかということは考えた方がいいかもしれません。個性豊かなまちというのは、先ほどの「定住したくなるまち」という中で、自分の地域に誇りがもてるということは、定住を促進するうえで極めて重要です。誇りを持てるとはどういうことかを考える場合、個性豊かであるとか、安心とか、特に高齢化すると日常生活の交通の便が悪いと定住が難しいという高齢者が増えてきますので、そういったことも踏まえた指標を考える必要があると思います。広告景観形成地区は2地区という目標を達成したら、目標がなくなってしまいますが、それで終わりにはならない項目だと思いますし、それだけでは冒頭の目標を達成できないのではないかとしますので、もし可能であれば、順次、目標の見直しの検討をお願いします。

牛山部会長：ありがとうございます。確かに、先ほど進捗状況を見て目標設定するというものがありましたので、その辺の違いや、考え方について、事務局からコメントをお願いします。

杉山総合政策課長：ありがとうございます。今いただいたKPI設定の問題については、今立てている計画を作った市町村数の先にある、いわゆるアウトカムのような色彩が非常に強いものをKPIに設定した方が、より全体としてわかるのではないかと、ということになるかと思えます。そのことによって、アウトカムのような、本当の意味で持続可能な社会づくりであったり、本当に住みたくなる地域づくりであったり、そういうことになるのではないかと思えます。ただ、なかなか難しいのは、そういう統計が現時点で設定可能かどうかということです。行政の立場からすると様々データを見たうえで、今回、この地方創生総合戦略を作成し、KPIを設定させていただいております。その中で、本当に統計としてとれていくもの、経年変化がわかるようなものというデータがないと、設定することの意味が問われてしまいます。ただ、今回地方創生の総合戦略が全国的に進んでいく中では、県においても、国においても、市町村においても、さまざまな統計がとられていくと思えます。そうした中で、よりよいデータ等がでてくれば、次回の総合戦略の改定時であったり、そうしたところで、新しい指標をデータ化し、KPIに設定していくということはあるのかと思っています。もう一つは、すぐに数値目標が達成されてしまうようなものができたとすれば、それをそのまま数値目標として置き続けるというのは、あまり意味のないことになりますから、その辺はまた近々に考えなければいけないと思っています。

牛山部会長：ありがとうございます。よろしいでしょうか。

室田委員：もっと広がりがあるような、必ずしも全住民にアンケートをとってくださという意味ではないのですが、もう少し多様な関係者や多様な地域に関わり、該当するような、例えば、魅力的な地域の特色を活かしたまちということであれば、いろんな地域に該当するようなものがあれば、それを使っていただけると嬉しいという意味です。

牛山部会長：ありがとうございます。今日まだご発言いただいていない方でどなたかいかがでしょうか。

山崎委員：資料2の53ページ、基本目標4(2)に関連するのですが、資料4の基本目標4(2)で、電気自動車地域導入促進モデル事業がありまして、このことに関して、53ページの方には、KPIに設定されていないし、「主な取組みと成果」にも触れていません。この事業は、どこに関連をさせたのでしょうか。

牛山部会長：事務局、お願いします。

杉山総合政策課長：現時点で分かる範囲でお答えさせていただきます。個性豊かなまちづくりの中で、電気自動車を導入することで、非常に過ごしやすい、そうしたまちづくりになりますので、基本的には3つ目の街の形成、エネルギー自立型の「まちづくり」部分に該当していると考えております。

牛山部会長：では、三崎委員どうぞ。

三崎委員：2点ありまして、まず、空き家関連です。例えば将来、お一人で暮らしたいというご高齢の方が今、家を持っていて、空き家が激増するとも予想される中で、空き家所有者を対象とした相談窓口では、足りないのではないかと個人的に思っています。家を所有されている方すべてに、将来空き家にならないためのアドバイスをするような、情報提供することを今後の課題に入れてもよいのではないかと。

48 ページの2つ目のまるですね。この若い女性の未病対策というのは、再掲になっていますので、恐らく他のカテゴリー、42 ページに掲載されているものを再びこちらにも載せたものだと思うのですが、出産をしてもらうための対策の1つとしてこういう書かれ方をしていると思うのですが、だとすれば、私は専門家ではないのですが、色々なところで情報を聞くと、この安心して出産するための健康状態というのは男性も含まれるはずですので、若い女性に限ってよいのかと疑問がございます。

牛山部会長：2ついただきましたが、事務局いかがでしょうか。

杉山総合政策課長：まず1つ目ですけれども、空き家がこれから急増する、それはお一人住まいの高齢者の方がたくさんいらっしゃる、というようなことですので、空き家の総合相談窓口は様々なところでやっておりますので、書き込める部分が事業部局であれば、むしろここで書いていくということが必要なと思っております。調整しながら、取り組まれていけば取組みの中に記載していく、取り組まれていないのであれば、今回のご意見の中に含めていく、このように調整していきます。これが1つ目です。

2つ目、女性の未病という言い方の問題であると思っております、こちらについては、様々なライフステージの中で、子どもの未病対策から、県では未病を改善すると、取り組んでいまして、色々な対象の1つとして、子どもがあったり、高齢の方があったり、1つとして女性と書かさせていただいているので、特に、男性から切り出してというよりは、女性の方で若い方も是非、未病対策を未病コンセプトで取り組んでもらいたい、という書き方なので、今お話があった、出産のために、というニュアンスではないと承知はしております。

牛山部会長：よろしいでしょうか。

平位委員：総合戦略を次回、策定するスケジュールについてと、この評価部会についての今後のスケジュールが判明していればお願いしたい。

関委員：50 ページですが、色々取組みが挙げられている中で、K P I に具体的なニーズに設置されていないものが、いくつかある、例えば C C R C や福祉コミュニティづくりを担う人材育成など、これらの評価が具体的にどうなのか。ヒアリングを実施したあと検証を行ったとあるが、検証が十分だったのか、そうではないか、つまりニーズとして出

てないものについて少し書き込むといいかと思ったのと、もしそれが十分だということであれば、今後の課題に入れ込む必要があると思います。

杉山総合政策課長：総合戦略でございますが、2015年から2019年までの5年間ということになっていきますので、2019年が終わったところで、改定していく予定です。合わせましてこの評価部会について、現時点での話しとご了解いただきたいのですが、基本的にはPDCAを回す以上、毎年、毎年、前年度の評価をし、それを新たな取り組みに生かしていくということですので、毎年やっていきたいと思っています。また、最終年度については、全体についての評価、最終年度は5年間をトータルした数値目標の評価をする必要があると思っておりますので、数値目標を含めた大きな意味での評価を総括していく必要があると考えています。

関委員からいただいた部分については、よく事業部局と検証を行った結果について、書き込みが出来るようであれば、是非書き込みをしていく。書き込みが出来ないようであれば難しいかもしれませんが、出来る範囲の中で取り組ませていただく。それが、取組みの方に入ってくるのか、課題の方に入ってくるのか、なんらかの対応をしていきたいと思えます。

牛山部会長：基本目標4に対するご議論については、ここまででまとめさせていただきます。先ほどの議論と同様に、書きぶりですとか説明の仕方については多数のご意見をいただきまして、事務局の方で再度修正について検討していただきたいと思えます。評価については、皆さんのご意見としては、「概ね順調に進んでいる」と二次評価とさせていただきます。よろしいでしょうか。

全委員：異議なし。

牛山部会長：小柱についても、よろしいと思えますが、1点だけ、(1)のについて、もちろん概ね順調に進んでいますという評価で結構なのですが、7項目中3項目ということは、4項目がダメとここだけ見ると読めてしまうので、丁寧に、7項目中2項目についてはまだ把握していないけれども、残りの5項目のうち3項目は順調に進んでおり、未把握についても達成可能と見込んでいるといった書き方をさせていただいたほうが良いのかなと思えます。その点含めて、課題につきましても、皆さんからたくさんご意見いただきましたので、入れ込めるような部分がどの程度あるかについて、ご検討いただいて、それぞれの小柱について、今後の課題と対応策あるいは説明のしかたについて書き込んでいただければと思えます。よろしいでしょうか。先行型交付金につきましても、有効であったと評価させていただいてよろしいでしょうか。

全委員：異議なし。

牛山部会長：ありがとうございます。大変活発にご議論いただきまして、まだまだご意見おっしゃりたい方もいらっしゃるかと思います。まとめさせていただきたい

と思います。また、もう1つの部会の方も議論されているので、そちらも含めて、最終的な議論をする機会もあるかと思います。この部会につきましては、皆様からいただいたご意見を出来るだけ反映させていく、部会長と事務局とで議論しながら、まとめていきたいと思います。部会の報告についてはご一任いただいでよろしいでしょうか。

全委員：異議なし。

牛山部会長：ありがとうございます。  
本日の議事については以上とさせていただきます。

### 3 閉会

杉山総合政策課長：本日は貴重なご意見を頂きましてありがとうございました。今後、本日いただいたご意見をもとに部会長と相談させていただき、まとめさせていただきます。最終的に全体会を開催させていただく予定ですので、改めてご連絡申し上げます。大変恐縮ではございますが、よろしく願いいたします。

牛山部会長：ありがとうございました。それでは本日の部会を閉会させていただきます。ご協力・ご審議ありがとうございました。

-----